

第29回

国際福祉機器展 H.C.R. 2002

高齢者の転倒を防ぐ予防、発生から寝たきりにならないリハビリまで

2002(平成14)年9月10日～12日

国際展示場「東京ビッグサイト」(有明)

- 「アジア太平洋障害者の10年」の最終年にあたり「この間の経験と蓄積された実績をもとに、新世紀においても障害者の完全参加と平等を実現するため、さらなる取り組みが必要である」との長尾立子全社協会長による挨拶で開会
- 国内出展社アンケートでは、「出展効果あり」が96%で「新製品の発表、ユーザーとの有効な情報交換ができた」との回答、さらに、海外出展社アンケートでは「出展効果あり」が84.2%と伸び、「新規販売の可能性が増えた」との回答が増えた
- 国民生活基礎調査にて、日常生活での高齢者の骨折や転倒が寝たきり老人の原因の12%を占めるという結果を受け、特別企画「高齢者の転倒を防ぐ～その予防、発生から寝たきりにならないためのリハビリまで」のセミナーを開催



[第29回 ポスター]

主催 全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会
 来場者数 137,112人
 出展社数 617社：海外14か国1地域81社、国内536社
 ◆東展示場 1～6ホール

特別企画セミナーにおける
医療、リハビリ専門家による講師陣



浅山 滉氏



西村尚志氏



石神重信氏



- ▶ 構造改革特区法成立
- ▶ 少子化対策プラスワン発表

特別企画

高齢者の転倒を防ぐ ～その予防、発生から寝たきりにならないためのリハビリまで

講座テーマ

1. 在宅での転倒

- 転倒が起こるきっかけは
- 転倒を防ぐには
- 転倒が起こったら

浅山 滉氏

医療法人順和長尾病院副院長

2. 施設での転倒

- 平成12年度「福祉サービス事故事例」調査より
- 転倒ということ
- 転倒事故は基本的なADLの中で起こっている
- 転倒のリスク・マネジメント

西村尚志氏

諏訪赤十字病院リハビリテーション科部長

3. 転倒からのリハビリテーション

- 転倒によって何が起こるか
- アメリカでは高齢者の骨折（股関節骨折）はEmergency
- 緊急手術・高齢者は入院日がBest Condition
- リハの原則
- 車いす・歩行介助具の使い方
- 転倒しやすい基礎疾患（脳卒中）
- 転倒はどんなところで起こるのか
- 転倒はどんなときに起こるのか（動作）
- 転倒はどんな時間帯に起こるのか
- もっとも大切な介護の基本
- 転倒とリハビリテーション
- 腰回りの強化

石神重信氏

防衛医科大学学校リハビリテーション部助教授

Part 1 高齢者自らの転倒防止 10か条

1. 足元の小さな段差に要注意
2. 外出は、時間に余裕をもって
3. 悪天候、夜間の外出要注意
4. 立ち上がり、急な動きは“めまい”のもと
5. 人ごみやバス、電車であわてずに
6. 階段は、手すりをにぎって、上り下り
7. 転ばぬ先の杖
8. 良い履物は身を守る
9. バランスのよい食事と体力づくり
10. 歩く前にストレッチ、背すじを伸ばしてゆっくりと

Part 2 転倒防止の介助 10か条

1. みてないところで起こる転倒
2. 夜明けは高齢者の活動時間帯
3. ベッドの高さは35～40cm、危ない柵越え事故
4. 乗り移りは最大のリスク
5. 介護と子育ては忍耐が決め手
6. 杖・装具・車イスの有効活用
7. 声をかけ、注意の喚起と安全確認
8. バリアフリーの環境づくり
9. 体力・気力は転倒防止
10. 寝たきりで、起こる転倒、増える痴呆

※当該特別企画セミナーにおいて示された。